

新たに市史執筆協力員の2名を委嘱！

委託業者に依頼していた「第15章動物」の箇所を執筆いただきました。こちらで提供した資料があまりにも古かったこともあり、内容が不十分であったため、市史編さん室と委託業者で検討し、専門的な知識を有する下記の方々に新たに執筆協力員として「第15章動物」の箇所を分担して執筆いただくことになりました。

◎「第15章動物」第1節トサシミズサンショウウオ、第2節動物…執筆
高知市立動物園わんぱくこうちアニマルランド・吉川貴臣 学芸員

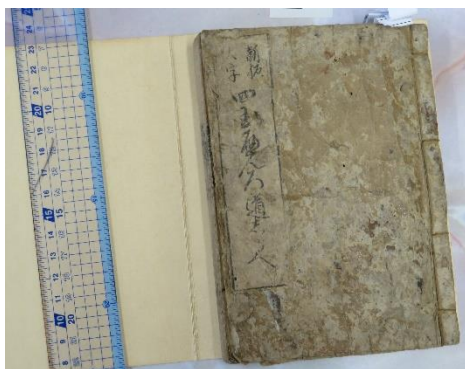
◎「第15章動物」第3節海洋生物…執筆
株式会社高知県観光開発公社高知県立足摺海洋館・新野 大 館長

お二方ともその専門分野のエキスパートであり、7月いっぱいを期限に急ピッチで執筆していただくようお願いしました。

なお、このお二人以外にも、第5章近現代史の第8節の一部を執筆者(田村公利)の指導のもと生涯学習課職員・吉本工心氏が、第7章戦争遺跡の執筆者(出原恵三)との連携のもと市史調査協力員の大原純一氏が図面作成や文章の一部を執筆します。

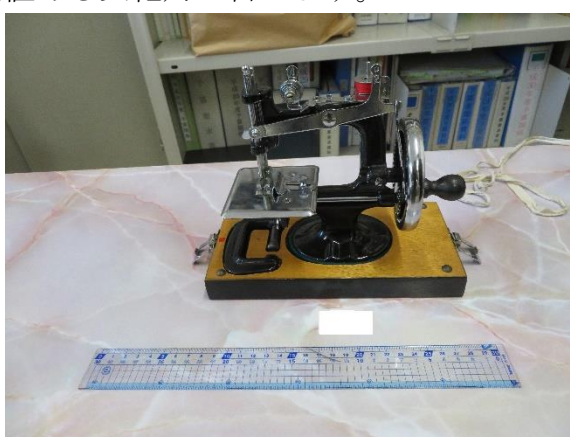
本市に『大字新板四国扁んろ道志るべ』などを寄贈いただく！

東京都墨田区在住・中内義隆氏(土佐清水市出身)が、去る11月25日、貴重な文化財など計20点を本市にご寄贈いただきました。当教育委員会は現在、真念庵周辺の金剛福寺道を国の史跡にしようと調査活動を実施しており、タイムリーにも文化12年(1815)に再版された『四国扁んろ道志るべ』をご寄贈いただきました。これは四国遍路のガイドブックとし、真念によって貞享4年(1687)『四國徧禮道指南』として出版されて以来、近世・近代と連綿と受け継がれてきた実用書です。



↑文化12年に再版された真念著『四国扁んろ道志るべ』

『四国扁んろ道志るべ』以外にも、近世末から近代初めにかけて欧米を中心に大流行したシンガーミシンも寄贈していただきました。日米修好通商条約批准のため、安政7年（1860）1月に咸臨丸が随行艦として米国に派遣されました。万次郎はその乗員として米国に派遣され、その帰国の際に土産として写真機・ミシン・アコーディオン・書籍などを購入しました。このときのミシンがウィルソン社製のミシンでした。当時、競合していたミシン会社が「ウィルソン社」「グローバー社」「シンガーミシン社」の3社でした。ミシンは機械本体ばかりではなく、箱の装飾や高級家具としての機能も有していました。シンガーミシンの場合、値段が\$100～200であり、当時一般家庭の年収が\$500くらいであったことから、極めて高価な商品であったことは間違いありません。万次郎が持ち帰ったミシンではありませんが、その時代に商品として流通していたシンガーミシンは、極めて価値ある文化財と言えます。



↑寄贈されたシンガーミシン。左:箱、右:ミシン本体

この他にも歴史的に価値のある多数の資料や文化財を頂戴しました。中内さん本当にありがとうございました。これらの資料や文化財は、市民図書館で展示し、貴重な書籍等は市民図書館で保管し、その他の物は中浜小学校民具館に一括保管させていただきます。市民図書館での展示につきましては別途ご案内をいたします。

【編集後記】

早いもので令和3年もあと残りわずかとなりました。令和元年末から広がったコロナウィルスの蔓延、ここ十数年前から顕著となった線状降水帯による局地的豪雨と地球的規模での気候変動、これらの諸現象をみていると、時代の転換期に突入していると実感します。

これまでの価値観だけでは、次々と山積するジレンマを克服していくことは不可能でしょう。その鍵の一つは、歴史から学ぶことだと思います。800年の昔、鎌倉時代も天変地異が多発し、飢餓が襲い、生き地獄のような光景が広がっていました。いわゆる仏教でいうところの末法の世であり、これまでの価値観や常識だけでは如何ともし難い事態が発生したのです。このような苦難との戦いの歴史が人類の歴史であり、そこから先人たちは這い上がり、社会を再生させていきました。

これらの困難を克服するためのヒントが、「歴史」に多くちりばめられていると私は思います。そのことを胸に「市史編さん事業」を明年もガッチリと取り組んでいきましょう。本年は本当にお世話になりました。来年もよろしくお願いします。（田村）